

骨太の方針2022

年明けから猛威を振るったオミクロン株による新型コロナウイルス感染症の第6波は、感染のピークを過ぎても新規感染者数の多い状況が続いていましたが、ここに来てようやく減少傾向が全国的に顕著となってきました。一方で、人々の移動の制限やイベントの開催、飲食店の営業の制限も緩和され、海外からの観光客の受け入れも再開されます。感染拡大の防止と社会経済活動の再活性化の両立を図っていく上で重要な時期を迎えています。3密を避ける等の基本的な感染防止対策を継続していくことが求められています。

さて、政府は来年度予算の編成作業に先駆け「経済財政運営と改革の基本方針2022」（いわゆる「骨太の方針2022」）を6月7日に閣議決定しました。

今回の骨太方針では、新型コロナウイルス感染症、ロシアのウクライナ侵攻や気象変動問題等、我が国を取り巻く環境が大きく変動する状況において、この社会課題解決の取組を付加価値創造の源泉と位置づけ、課題解決と経済成長を同時に実現し、より強靱で持続可能な「新しい資本主義」を起動するとしています。

新型コロナウイルス感染症対策については、医療提供体制の強化を進め1日も早い経済社会活動の正常化を目指すとともに、これまでの新型コロナウイルス感染症対応を客観的に評価し、次の感染症危機に備えて、本年6月を目途に、危機に迅速・的確に対応するための司令塔機能の強化や保健医療体制の確保など、中長期的観点から必要な対応を取りまとめるとしています。

科学技術・イノベーションについて、量子、AI、バイオものづくり、再生・細胞医療・遺伝子治療等のバイオテクノロジー・医療分野は、国益に直結する技術分野であり、国が国家戦略を明示し、官民が連携して投資の抜本拡充を図り、科学技術立国を再興するとしています。また、スタートアップ（新規創業）は、経済成長の原動力であるイノベーションを生み出すとともに、環境問題や子育て問題などの社会課題の解決にも貢献しうる、新しい資本主義の担い手であるとし、スタートアップ政策を大胆に展開するとしています。

この他、オンライン資格確認について、保険医療機関・薬局に、2023年4月から導入を原則として義務付けるとともに、患者によるマイナンバーカードの保険証利用が進むよう、関連する支援等の措置を見直すこと。2024年度中を目途に保険者による保険証発行の選択制の導入を目指し、さらにオンライン資格確認の導入状況等を踏まえ、保険証の原則廃止を目指すこと等も記されています。

国会は6月15日で会期を終え、論戦の場は選挙戦へと移ります。参議院議

員選挙には日本薬剤師連盟の統一候補者として、神谷政幸さんが出馬予定です。薬剤師・薬局の発展等の医療提供体制の充実と医薬品等の医療関連産業の更なる成長のため、後継の神谷さんへ確実にバトンを渡せるよう、国会議員としての最後の役目を果たしていきたいと思います。